

平成 17 年 2 月 14 日
核燃料サイクル開発機構

新型転換炉ふげん発電所の原子炉補助建屋廃棄物処理室での水漏れについて

1. 発生時の状況

新型転換炉ふげん発電所（新型転換炉；定格電気出力 16.5 万 kw）は、廃止措置準備中ですが、平成 17 年 2 月 3 日廃棄物処理建屋にある粒状廃樹脂貯蔵タンク F のデカント水（上澄み水）を原子炉補助建屋の廃棄物処理室にある床ドレンサンプルタンクに移送する作業を行っていたところ、10 時 42 分に、同処理室の床ドレン配管から漏えいしていることが確認されました。

このため、直ちにデカント水移送ポンプを停止し、11 時 10 分に漏えいは止まりました。

現場確認の結果、漏えい箇所に直径約 6 mm の穴が認められました。

また、漏えいした水の量は約 40ℓ、放射エネルギーは約 1.0×10^6 Bq でした。

なお、この事象による環境への影響はありませんでした。

2. 漏えい箇所の点検結果

廃棄物処理室床ドレン配管の外観点検を行った結果、塗装の一部に剥がれが認められるものの、割れ、欠け、変形、変色は認められませんでした。

漏えいが認められた箇所の前後 500mm の配管について肉厚測定を実施した結果、配管下部（周方向）の約 1/4 に J I S の公差（3.4～4.5mm）を割る減肉が認められましたが、それ以外は、J I S の公差内でした。

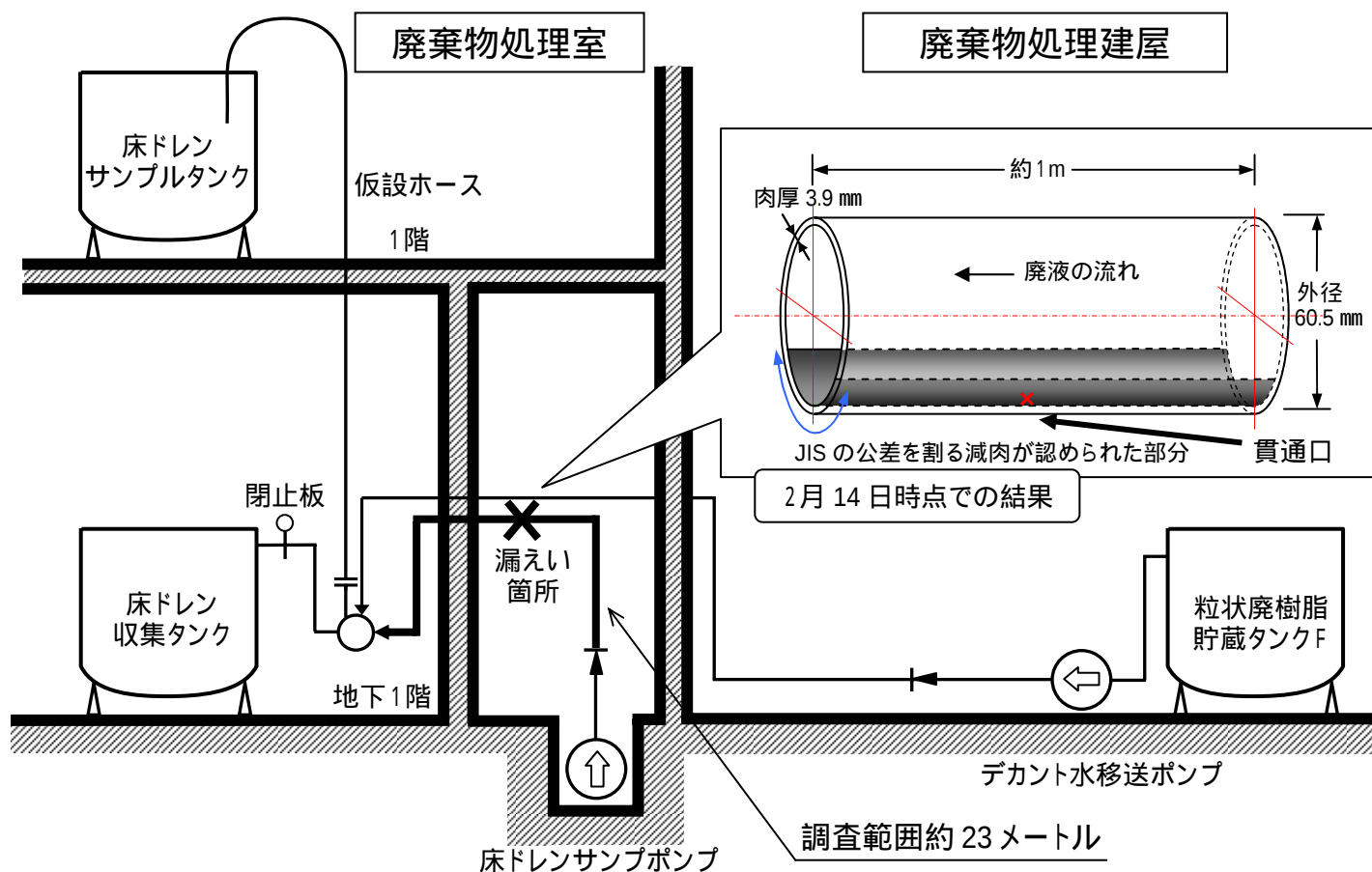
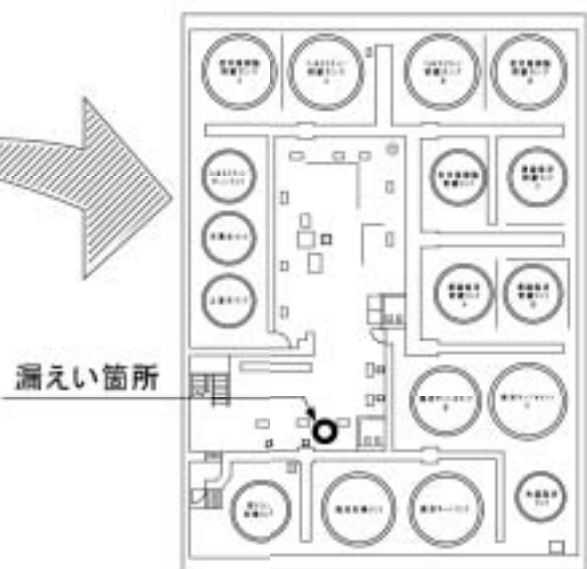
また、貫通口近傍の母材は、減肉が認められるものの、その範囲は狭く局部的にとどまっていました。

3. 今後の予定

廃棄物処理室床ドレン配管について、今回肉厚測定を行った範囲以外も肉厚測定を行い、配管の布設状態による特異性の有無を確認します。

また、漏えいが認められた箇所の配管については、原因調査のため、切断して貫通口の破断・断面観察及び付着物分析を行います。

以 上



デカント水移送状況図